



藤井電気株式会社

2023 年度 環境経営レポート

(対象期間 2023 年6月1日～ 2024 年5月31日)



発行日： 2024年7月20日

目 次

項 目	ページ
あいさつ	3
環境経営方針	3
組織の概要	4
事業・製品の紹介	4
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	5
主な環境負荷の実績	6
環境経営目標及びその実績	6
環境経営計画の取組結果とその評価	7
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無	9
緊急事態対応訓練	9
代表者による全体の評価と見直し・指示	10
これまでの環境活動の紹介	10



所属する団体組織による豊岡市クリーン作戦ボランティア活動状況（公園等除草の収集処分作業）

□ごあいさつ

地球規模で環境破壊が加速していると痛切に感じる中、いかに後世の子孫たちに豊かな自然環境を残してやる事が出来るか、まさに私たち一人一人、事業体の一つ一つの行動・活動いかんに関わってきます。このエコアクション21を活用してその想いをより具体的な目標をもって行動に移し、そして何よりも会社全体でその意識の向上、高揚を図り、この問題に取り組んでいきます。

環境経営方針

<環境経営理念>

藤井電気株式会社は、本業である電気工事業を通して、地球温暖化問題への取り組みや地域の環境活動に自主的・積極的に取り組みます。

省エネルギー活動や資源リサイクル活動を行ない、この地球環境問題改善への貢献を従業員一丸となって継続的に改善活動に取り組んでまいります。

<環境保全への行動指針>

- 1． 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
- 2． 創意工夫による省エネルギーにより二酸化炭素排出量の削減に努めます。
- 3． 廃棄物の発生抑制につとめ、建設副産物のリサイクル率の向上に努めます。
- 4． 適正な利用により水使用量の削減に努めます。
- 5． 環境に配慮した工事に努めます。
- 6． 顧客様への提案もより地球環境にやさしい商品を積極的に提案します。
- 7． 地域や関係団体の環境活動に積極的に参加します。
- 8． この方針は、全社員に周知します。



制定日： 2020年6月1日

代表取締役 **藤井康人**

□組織の概要

(1) 名称及び代表者名

藤井電気株式会社

代表取締役 藤井 康人

(2) 所在地

本 社 兵庫県豊岡市正法寺614番1号

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 代表取締役 藤井康人

TEL : 0796-22-5123

担当者 代表取締役 藤井康人

FAX : 0796-24-2650

(4) 事業内容

電気工事業、消防施設工事業

(5) 事業の規模

売上高 19,653 万円

	本 社	計
従業員 名	8 名	8 名
延べ床面積 m ²	549.52 m ²	549.52 m ²

(6) 事業年度 6 月 1 日 ～ 5 月 31 日

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名 : 藤井電気株式会社

対象事業所 : 本 社

対象外 : なし

組織・活動 : 全組織・全活動（電気工事業、消防施設工事業）

□事業や製品(商品)の紹介

- ・電気工事全般（道路照明、トンネル照明、それに附属する設備や施設、工場、店舗、事業所、一般住宅他）に携わっております。顧客先は国、県、市などの諸官庁をはじめ、一般法人、個人様になります。
- ・電気工事業を通して社会貢献を果たすことを理念とし、ライフラインのひとつである電気をより安全に快適に皆様にご利用していただけるよう、日々研究と研鑽を重ね社員一丸となって従事しております。



城山・塩谷トンネル内照明
等 電気設備工事
(兵庫県但馬県民局)



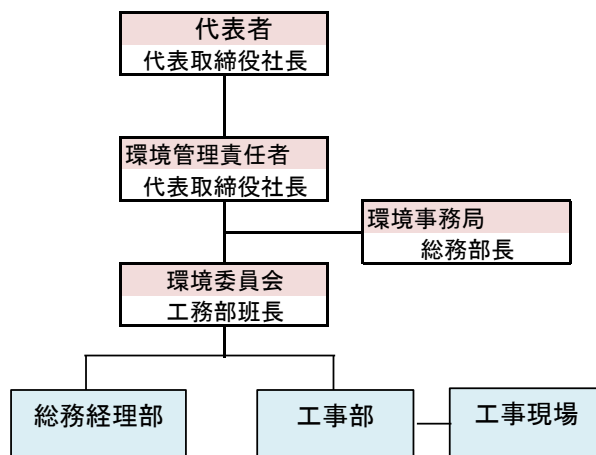
レストラン新築電気設備工事



某邸新築電気設備工事

□環境経営組織図及び役割・責任・権限表

制定日：2020年6月1日



	役割・責任・権限
代表者(社長)	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境経営方針の策定・見直し ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直し、指示 ・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境経営目標・環境経営計画書を確認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの確認
環境事務局	・環境管理責任者の補佐、環境委員会の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付)
環境委員会	・環境経営計画の審議 ・環境活動実績の確認・評価
部門長	・自部門における環境経営方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ・自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 ・自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 ・試行・訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
内部監査チーム	・環境に関する内部監査の計画 ・環境に関する内部監査の実施・報告
全従業員	・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

□主な環境負荷の実績

項 目	単位	2021年度	2022年度	2023年度
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	20,613	26,965	26,328
廃棄物排出量				
一般廃棄物排出量	kg	0	0	0
産業廃棄物排出量	kg	3,217	9,663	4,479
水使用量	m ³	164	110	72

※二酸化炭素排出係数 0.434 kg-CO₂/kWh 2022年関西電力の調整後の係数

※負荷の実績は工事現場を含む

※上記二酸化炭素総排出量は、電力の使用・自動車燃料、暖房用灯油及び給湯用LPGによるCO₂排出量の総計

□環境経営目標及びその実績

項 目 \ 年 度		基準値	2023年			評価	2024年	2025年
		(基準年)	(目標)	(実績)			(目標)	(目標)
電力による二酸化炭素削減	kg-CO2	6,678	6,544	6,802	×	6,478	6,411	
	基準年度比	2020年	98%	102%		97%	96%	
自動車燃料による二酸化炭素削減	kg-CO2	17,635	17,283	17,881	×	17,106	16,930	
	基準年度比	2020年	98%	101%		97%	96%	
上記二酸化炭素排出量合計		kg-CO2	24,313	23,827	24,683		23,584	23,341
産業廃棄物の削減	kg	9,663	9,180	4,479	○	7,730	6,764	
	基準年度比	2020年	95%	46%		80%	70%	
水使用量の削減	m ³	110	105	72	○	101	99	
	基準年度比	2020年	95%	65%		92%	90%	
環境に配慮した工事の推進		行動目標(次項による)						

※対象化学物質の使用はありません。

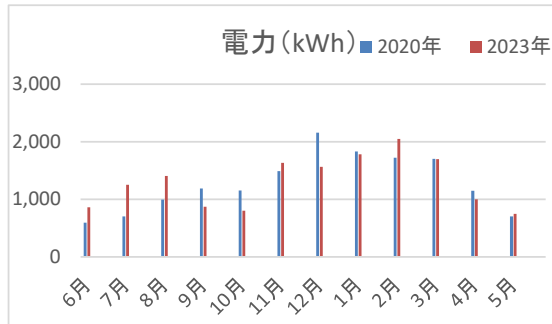
※表中の「二酸化炭素排出量合計」には暖房・給湯用途の燃料による二酸化炭素排出量を含みません。

□環境経営計画の取組結果とその評価

数値目標: ○達成 ×未達成

活動: ◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

電力による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	×	月次で目標値を達成できる月が少しありましたが、累計電力量はその目標値には及ばなかった。節電意識は全社員にあったものの、夏・冬におけるエアコン使用量が大きかったことがこの結果になってしまったのだと思う。次年度は節電の意識を更に高めていきたい。ただ節電だけに注意をして社員の健康面を崩すことだけはしてはならない。太陽光発電設備の導入も考えていきたい。
・空調温度の適正化	×	
・未使用部屋照明の消灯徹底	△	
・ノー残業デーの実施	×	



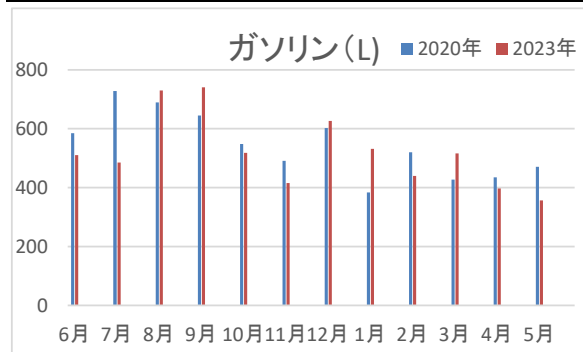
取組紹介欄



節電の注意喚起

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
2020年	595	703	994	1,186	1,154	1,488	2,160	1,829	1,722	1,705	1,148	703
2023年	861	1,252	1,408	871	801	1,635	1,565	1,781	2,049	1,699	1,002	749

自動車燃料による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	×	12月までの半期は累計目標数値をクリアしていたものの、1月以降はその目標を達することが出来なかった。受注した現場が遠隔地であった影響がでたためであるが、そんな中でも自動車燃料の削減にもっと努力すべきであったと反省する。今後電気自動車やハイブリッド車などに徐々に更新していき、自動車燃料の削減に
・エコドライブ10の啓発	△	

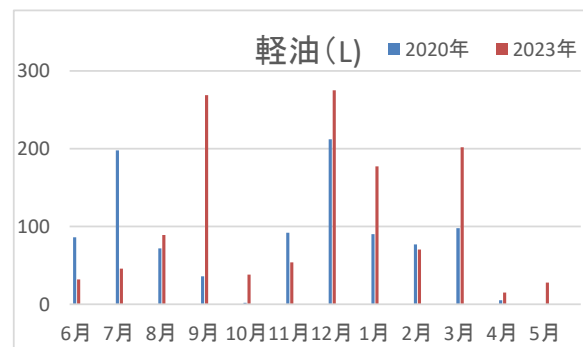


取組紹介欄



アイドリングストップの注意喚起

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
2020年	585	728	689	645	548	491	602	384	520	427	435	471
2023年	510	485	730	741	518	415	626	531	440	516	397	356



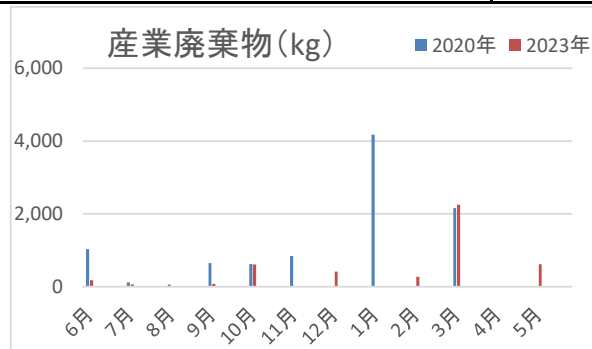
取組紹介欄



アイドリングストップの注意喚起

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
2020年	86	198	72	36	2	92	212	90	77	98	5	0
2023年	32	46	89	269	38	54	275	177	71	202	15	28

産業廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	月次では目標数値に達せない月がありましたが、累計としては目標数値をクリアすることが出来ました。これは極力現場においてゴミを出さない工夫をしたり、資材入荷の際も無駄な梱包等を最初から無い状態にして手配したりなどの工夫の成果が少しでも出たのではと思う。次年度も産業廃棄物の削減意識をもって取り組
・作業ミスによる廃棄量の削減	○	
・分別の徹底	○	
・リサイクル業者の開拓	○	



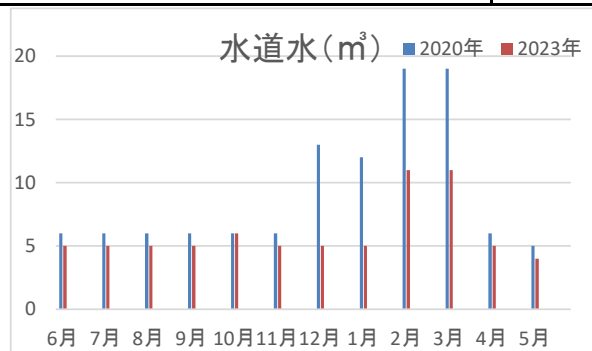
取組紹介欄



廃棄物分別化の注意喚起

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
2020年	1,030	120	60	650	623	840	0	4,180	0	2,160	0	0
2023年	180	61	0	80	608	0	410	0	270	2,250	0	620

水道水の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	社員の節水に対する意識が浸透してきた成果だと思う。冬季に融雪の為の放水をあまりしなかったことが累計的に削減を達成することが出来た大きな要因だと思う。引き続き今後も全社員の節水に対する意識づけを行なっていききたいと思います。
・節水への啓発	○	



取組紹介欄



節水の注意喚起

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
2020年	6	6	6	6	6	6	13	12	19	19	6	5
2023年	5	5	5	5	6	5	5	5	11	11	5	4

環境に配慮した工事の推進	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
・省エネ提案研究会の実施	○	過去に例を見ないぐらいの電気代の高騰が顧客の皆様の生活もしくは会社運営に大きな影響を及ぼしている。そのような中で少しでも顧客の皆様により良い省エネ対策の提案をするべく、まずは自社の中で省エネ提案研究会を実施している。その成果が着実に形になってきている。引き続きこの研究会の充実を図ってい

取組紹介欄



省エネ提案研究会の実施

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無
法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）	評価
廃棄物処理法	産廃処理委託契約書、許可証、マニフェストの管理及び適正処理	遵守
建設リサイクル法	建設副産物の適正処理	遵守
騒音規制法	騒音規制基準の遵守	遵守
振動規制法	振動規制基準の遵守	遵守
消防法（危険物）	危険物の適正管理	遵守
フロン排出抑制法	フロン類使用機器の定期点検と記録の保存 業務用エアコン、冷蔵・冷蔵庫等の有無の事前確認、発注者への書面説明、 書面の3年間保存	遵守

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。
なお、関係当局より違反等の指摘は過去3年間ありませんでした。

□緊急事態対応訓練

緊急事態の想定： 火災の発生	
■実施日： 2023年10月21日	■実施場所 藤井電気㈱2F会議室、駐車場
■参加者： 代表取締役以下7名	■実施内容： ・通報訓練、消火訓練、避難訓練
■評価：	手順書の変更の必要性 ☐ あり ☒ なし
火災原因の一つに電気火災がある。電気工事業に携わる立場において、施工不良による電気が原因での火災は絶対に出さないという信念があるが、それでもヒューマンエラーに絶対は無い。そうになってしまう前の訓練と万が一になら起こってしまった場合の訓練を行った。最後に消火器を使つての消火活動訓練も実践した。今回の緊急事態対応訓練は有効であったと思う。次回は地震等自然災害に対する訓練を行いたい。	
■実施状況の様子	
 緊急事態対応訓練状況	 消火訓練状況

□代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日：2024年7月20日

今年度は産業廃棄物の削減と水道水の削減などは目標数値を達成することが出来たものの、電力及び自動車燃料による二酸化炭素の削減は月次及び累計ともにその目標値を達成することができませんでした。
電力使用量に関して検証すると、減少できない原因としてやはりエアコン使用量に起因するところが大きいです。節電する意識は全社員にも浸透してきていると感じるが、エアコン等の使用を抑えることによって節電が出来たとしても、そのことによって社員の健康を害したり、ストレスが増すようなことがあっては意味がありません。節電という行為が矛盾することになってしまわないよう気をつけ、例えば暑さがピークの夏場の就業時間帯を変更するなど様々な工夫を今後も考えていかなければならないと感じます。抜本的な取り組みとして予算面が大きなネックとなりますが、近い将来に会社に太陽光発電設備を構築したいと考えています。
自動車燃料に関しても検証すると、これも年度において遠方での現場が多くあるかそうでないかによって大きく違います。今年度に関しては但馬南部での作業が多く、自動車燃料も多くかかってしまったというのが現状です。ただしそんな状況でも少しでも燃料の削減に意識を持ち、エコドライブを引き続き実践し続けることが大事だと捉えています。古くなってきた車両を新しく更新する際は低燃費な電気自動車やハイブリッド車にするなど考えていきたいと思っています。
いずれにしても一番大切なのは全社員でこのエコアクションでの取り組む意識の向上と、その意識を育める会社環境を作っていきたいと思っています。

代表取締役 藤井 康人

環境経営方針	☒ 変更なし	☐ 変更あり
環境経営目標・計画	☒ 変更なし	☐ 変更あり
実施体制	☒ 変更なし	☐ 変更あり

□これまでの環境活動の紹介

- ・所属する団体組織による豊岡市クリーン作戦ボランティア活動状況(公園等除草の収集処分作業)
- ・会社が在する地区の溝掃除(クリーン作戦)に毎年6月に参加実施。

□編集後記

このエコアクション21の活動も4年が経過しました。会社の発展と併行してこれら目標数値に達することはなかなか容易では無いですが、社員一人一人がその環境に対するより良い意識を持続するべく、会社もその活動が推進しやすい様な雰囲気から作っていきたい。年数を経過するとマンネリ化に陥りやすいが、年度ごとに何か特徴的なアクセントのある取り組みを実施するなどして今後の環境保全に対する意識を更に向上にしていきたい。他社の取り組み事例なども大いに参考にしながらこのエコアクション21への取り組みを実践していきたいと思っています。